



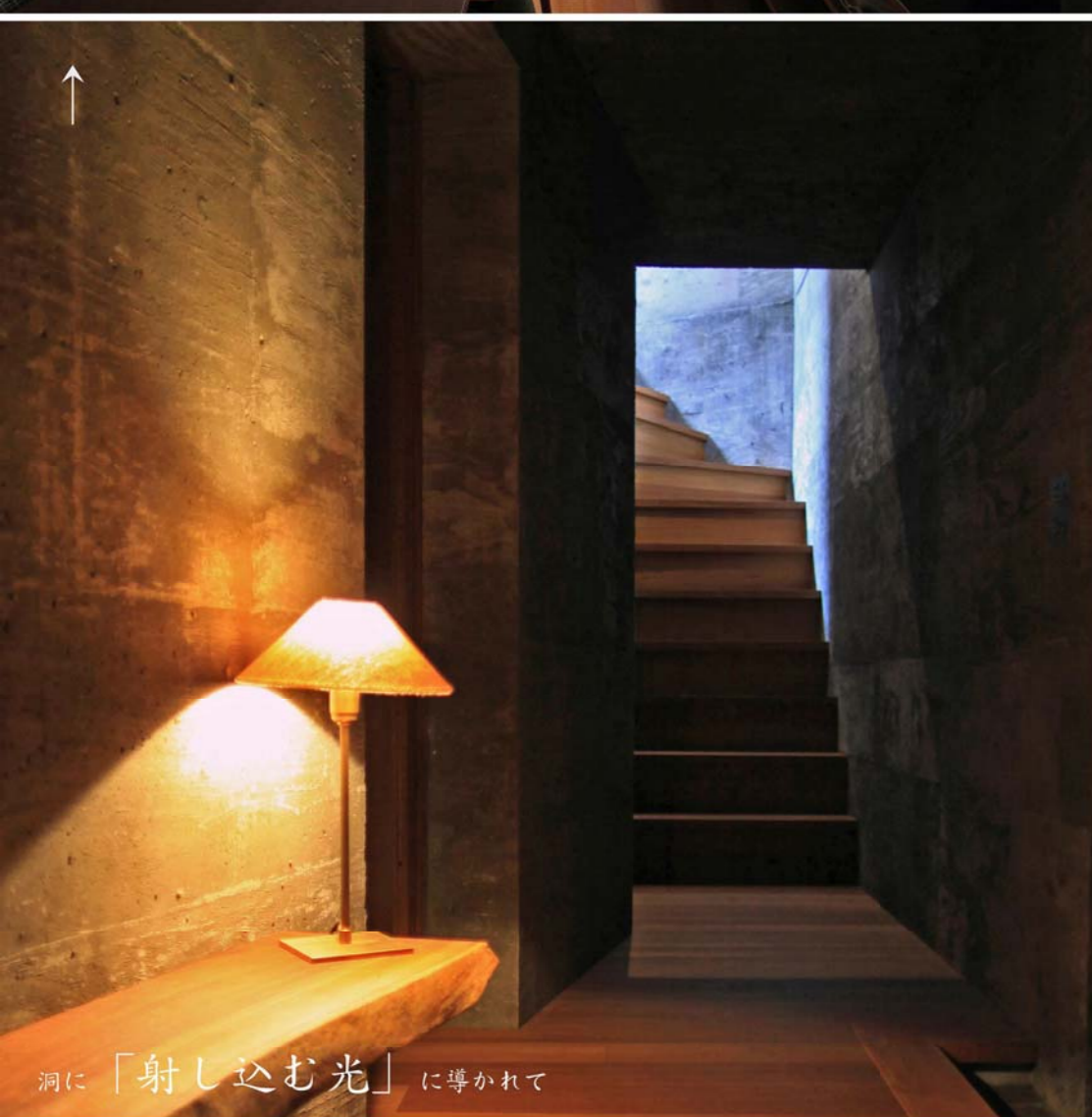
リビングの「通風採光」を兼ねた窓



温熱環境を意識した「小さな」な気積



洞を抜けてきた「開放感」



洞に「射し込む光」に導かれて



洞のような「原始的空間」



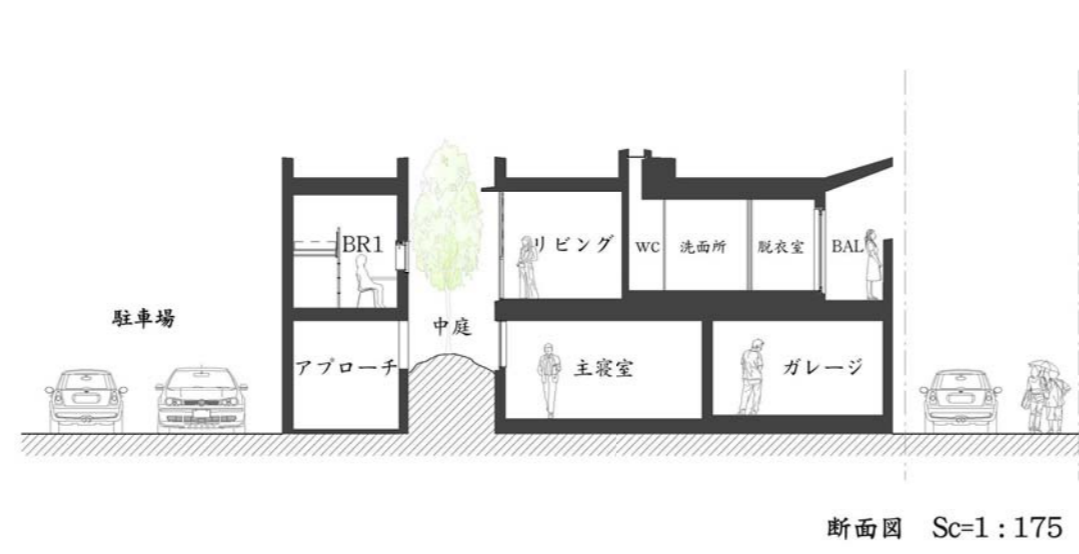
「時間の速度」を変える長いアプローチ



「不整形」が生み出す、「奥行き深さ」



内外一体的な等質空間



断面図 Sc=1:175



2階平面図 Sc=1:100



1階平面図 Sc=1:100



上下階を繋ぐ「赤松」



「地中」のような主寝室



針葉樹の床材、質感に「生命力」



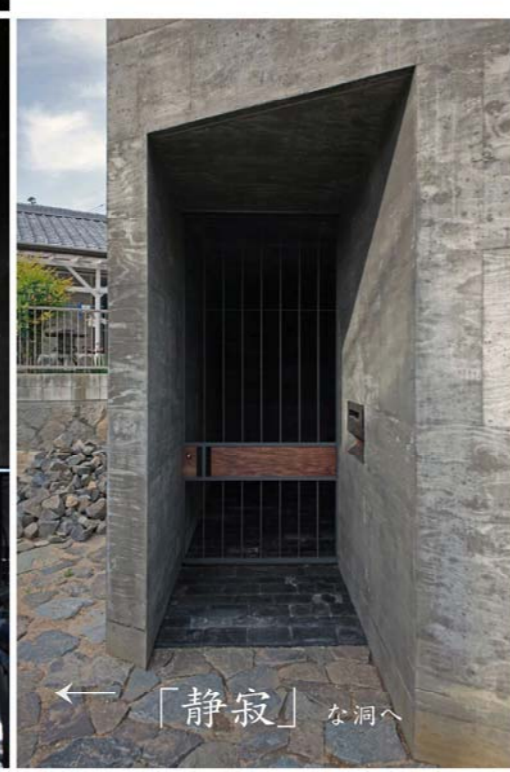
不均質 木置の壁

非常に交通量の多い幹線道路沿いの土地に「コンクリート打ち」の住宅を設計してほしいという依頼。周辺には小中高、学校等が多く、朝と夕方には多くの学生が行き交う環境。

「コンクリート打ち」で住宅をつくるということに抵抗を持っていたが「準防火地域」であること、激しい交通量から予想される「振動と騒音」を考慮していくと、穿るコンクリート造であることは理に通っていました。

「均質でない型枠、手で触りたくなるコンクリート」というものが「原始的な空間(兼)」をつくるのではないかと考え、型枠表現を模索。最終的には針葉樹合板をランダム張り、型枠を積層していく工法を提案し、住宅としての「通風採光、温熱環境の確保」にも成功した洞窟のような住まいとなりました。

# 「光洞の家」



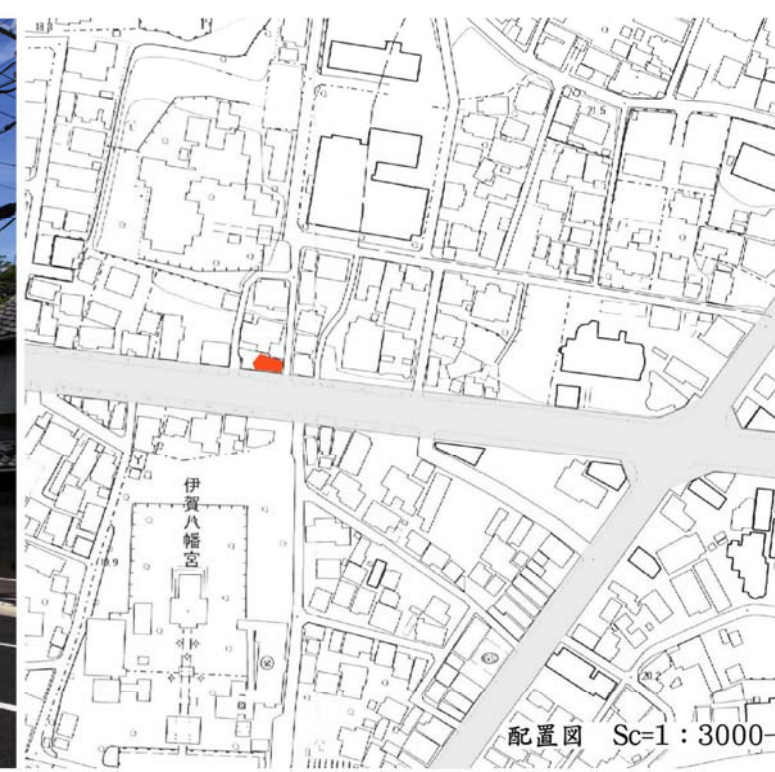
「静寂」な洞へ



激しい「振動」と「騒音」



「喧噪」の街



配置図 Sc=1:3000